

## M6級「繰り返し地震」

ほぼ14年周期  
地震波うり二つ

岩手県沖で2月15日に発生したマグニチュード(M)5.9の地震は、ほぼ14年おきに規則的に発生し、地震波がうり二つの「繰り返し地震」であることが、気象庁の調査でわかった。M6クラスの繰り返し地震が見つかったのは初めて。同庁は地震予知の新たな手がかりになるとして注目している。

地震は青森県南部町で震度4、青森市や盛岡市で震度3を記録した。震源は岩手県沖約50キロで、プレートと呼ばれる太平洋の巨大な板状の岩盤が、陸側の岩盤に潜り込む境界面だった。

同庁が同じ震源域の過去の地震記録を調べたところ、1995年1月の地震(M6.2、最大震度3)と、地震波がそっくりで

### ■ 2月岩手沖で発生

あることが判明。81年10月、68年11月にも同様の地震があり、繰り返し地震と断定した。

同庁地震火山部の土井恵治・地震情報企画官は「一定の速さで沈むプレート境界面に凹凸があり、決まった間隔で、同じ規模の岩盤破壊が起きるのではないかと話している。

繰り返し地震は岩手県釜石沖で5年半間隔のM4.9、沖縄県宮古島沖で5.6年間隔のM5.1などが報告されている。ただし、M7級の大きな地震になると、岩盤が壊れる面積が大きくなって規則性が崩れてしまい、繰り返し地震にはならないとみられる。

